

河内神社報

発行所:〒731-5151
広島市佐伯区河内
五日市町上河内
http://kochijinja.org
河内神社
社務所

夏越の祓いにお参り下さい

宮司 山田 茂雄

7月1日(日)午後2時より、夏祭りおよび夏越大祓・茅輪神事(夏越神事)を、この地域皆様の氏神様・河内神社にて執り行います。

昨年3月の東日本大震災、原発事故以降、復旧・復興の足取りは遅々として、進んでいるとは思えません。



地震や津波など、太古より大災害は幾度となく発生しています。我々の祖先は、こうした自然の猛威を畏れ、神様に祈り、また、それ以上の恵みに感謝し、お互い協力して現在の繁栄を得ました。夏越神事では多くの皆様の参列のもと、全員で大祓の祝詞を唱和し、夏越の祓いを行い、上半期の災い・禍事・罪・過ちを祓い清め、下半期に向けて、氏神様の新たな力をいただき、出立できるように祈願しましょう。

夏越大祓

災い・禍事・罪穢れを祓い清めます

皆様の人形をご神前に納め、参列者全員で大祓の祝詞を唱和します。その後、切麻(麻と和紙を小さく切ったもの)で自分の体を祓い清めます。祓いの行事の後に、お焚き上げをして、人形に移した罪や穢れを火の力によって祓い除けます。

人形は、地区の氏子総代さんに各家庭へ配って頂きます。各自、人形に氏名・年齢を記入し、自分の体をさすり、息を吹きかけ、身に付いた半年間の罪や穢れを移し、当日お持ち下さい。

当日ご参列できない方は、事前に人形をお持ち下さい。お参りの方に託されても結構です。人形は、社頭にも当日まで用意してあります。

総代さん不在の地区(藤の木、河内南、遥花等)の方は、本紙の人形を切り抜いてご使用、ご持参下さい。

茅輪神事

災いを防ぎましょう

「備後風土記」にある、

武塔の神(スサノオノ命)

が「茅の輪を腰に付けた人は子孫に至るまで疫病に罹



らない」と言われたという故事に基づいて行われます。

茅萱でできた茅の輪を8の字を描くように3回くぐり、「水無月の夏越しの祓えする人は千歳の命延ぶというなり」と唱えながら祓い清めて無病息災を祈り、新しく下半期を迎えるための伝統の神事です。

茅の輪は、6月24日から7月16日まで河内神社の境内に設置してあります。お参りの作法は、茅の輪に表示してあります。

河内神社ホームページ

画写番付

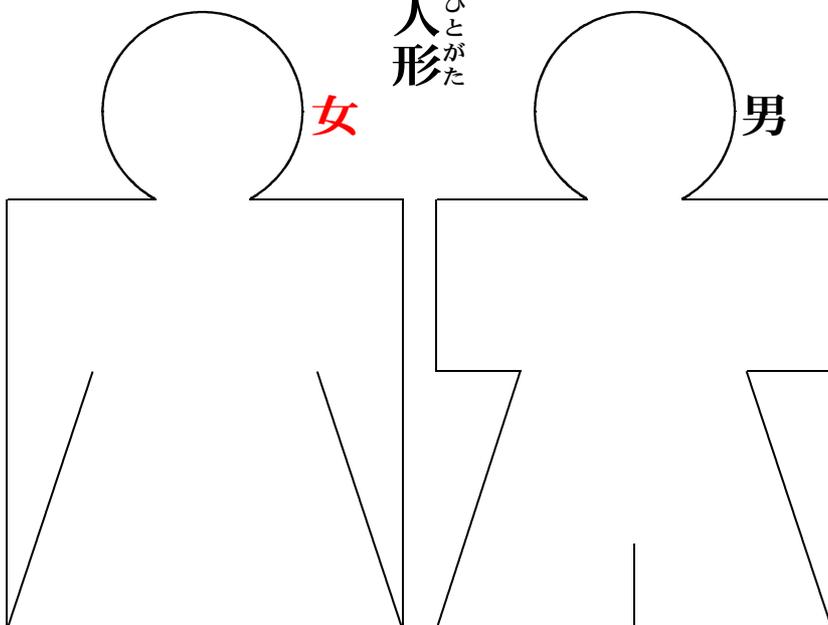
資料

不足する場合はコピーでも構いません。

人形

女

男



夏祭り

初穂を供え、安寧を祈ります

夏越神事の後、氏子・崇敬者の皆様と拝殿に上がり、夏の暑さに負けず健康で家庭平穏に過ごせるように、また、風水害や害虫などの災害が起こらないように、河内神社の神様に、氏子の皆様から奉獻されたお初穂をお供えし、お祭りを行います。



河内神社合祀・境内整備百年へ

明治40年、河内地域の旧村など各地区ごとに祀られていた神社、旧8社を合祀して（合わせてお祀りする）、河内地域の総氏神として、河内神社と改称しました。

現在の河内神社は、もと佐古神社の境内地であり、そこへ、もと日吉神社から移築した本殿が伝わっています。それ以来、明治・大正期にかけて、氏子や関係者の尽力により、拝殿、幣殿、手水舎が建てられ、鳥居、狛犬、石灯笼、玉垣が設置されて、次第に今の境内の様子が整備されてきました。

昭和に入ってから、駐車場や忠魂社の設置、拝殿の屋根の葺替えといった事業が行われてきました。しかしながら一世紀という長い年月を経て、本殿の屋根



は老朽化し、銅板がめくれ、石垣はずれが生じています。テントによる臨時の授与所では、氏子総代さんの手伝い時の寒さや授与品の管理など、多くの不具合を伴います。また、境内への車道、下水道接続など、時代に即した設備の必要性という、課題が生じています。



大正頃の整備の様子(本殿)

合祀・境内整備百年を迎えるにあたり、それらの整備を行い、我々が先祖より託された神社を子孫に引き継いでいきたいと思えます。これからの百年を見据えて、使いやすい、より良い神社に直し補って、氏神様をより身近に、よりご神威を新たにして、将来にわたり我々をお守りいただきたいと思えます。今の玉垣には、百年前に尽力した我々の先祖の名前が刻まれています。新しい河内神社の歴史を我々の手で作り、良き伝統文化を子孫に伝えていきたいと思います。

参道に灯籠が奉納されました

今年5月、一対の大きな常夜灯が、神岡工務店・大下利夫様より奉納されました。当日は、神社総代役員が手伝い、参道正面の大鳥居を少し進んだところに設置しました。

屋根(笠)は銅板葺、灯籠本体は木製、支柱(竿)はコンクリート製で、総高は2メートル90センチほど

裏面人形切抜き紙



【奉納者】神岡工務店・大下利夫様(藤の木)

どあります。立派な灯籠により、参道が随分賑やかに、明るくなりました。これからも河内神社の参道を照らし続けていきます。

7月1日の夏祭りにはご神前にて奉納奉告祭を斎行します。

伝統の御守

柳は、熊野新宮（熊野速玉大社・和歌山）のご神木です。熊野の新宮さんは、当地域の旧8社の新宮神社の神様であり、河内神社のご祭神です。

柳の葉には、縦に細い葉脈がたくさん走ります。そのため、その葉はなかなか横に破ることはできません。

この丈夫さにあやかり、必勝祈願となるとも、良縁を結び、切れないように嫁に行く娘の鏡の裏などに入れて持たせ、夫婦円満無事に添いとげられるように祈ったとも言われます。



また、読みが風（なぎ）に通じるので、渡航安全、心身安穩の御守として信じられています。平安末期の歌人、藤原定家の歌にもあるように、柳の葉をそつと持ち帰り、御守とする習慣が古くからあります。柳之葉御守入れ（由緒付）300円、河内神社で頒布。

神楽 — かぐら

②調子・舞いと河内の神楽
 柳宜 山田 岳晴

十二神祇と芸北神楽（これら系統については前回を参照）が伝承される広島県西部では、神楽の舞いに六調子・



柳 — なぎ



八調子という区別がある。感覚的に六調子は緩いテンポ、八調子は急なテンポとされる。間違いではないが、早打ちの六調子もあり、速さ（一定時間内の拍数）であるテンポは基準にならない。実際は楽譜（拍数）であるテンポは基準にならない。実際は楽譜のとり、調子の違いは拍子（リズム）に基づく。基本の一小節のうちに、六拍打つのが六調子、八拍打つのが八調子である。この六調子と八調子間の移行は容易で、場面に応じて拍子が変わる舞いもある。なお、雅楽の六調子とは別である。

また、旧舞・新舞という区別がされることもある。これは、芸北神楽や石見神楽で昭和戦後に始まる競演大会が発端である。大会では、戦前までは旧舞、戦後の創作は新舞とされる。十二神祇にも波及し、十二神祇はすべて旧舞とされる。ただし一般的には、ゆったりとした六調子が旧舞、機敏な八調子が新舞と捉えられている。

河内神社には、十二神祇と関係深い文明9年（1477）の五行祭祭文などの歴史資料が残っている。神楽は現在、下河内神楽団と上河内神楽団の二団体が、年ごとに交互に秋祭の前後祭に奉納する。河内地域には、もう一団、将軍という特徴的な舞を伝承していた白川神楽団があったが、後継者が絶えた。下河内神楽団は、天保年間に山田村（現・広島市西区）の宮司山田加賀守に習ったと伝え、十二神祇を伝承する。近年は石見神楽系の新舞・旧舞も修得し、各種イベントでも活動を行っている。十二神祇の保有演目は、五刀、合戦、鯛釣、荒平、八岐大蛇

八調子
 六調子

六調子は地域や舞などにより、拍子の前後が多い。八調子は地域や舞などにより、拍子の前後が多い。



など34を数える。舞台は正面三間、側面二間で、近年、下河内神楽団は独自の舞台を所有している。四隅に立てた柱に梁を渡して五色の紙や切抜紙などで飾る。舞台装置は神楽団が所有し、口上や楽のためのマイク、ミキサー、ヘッドセット、照明などがあり、年々拡充されている。

河内神社が本に紹介されました

延喜3年（903）創祀と赤羽牛の話や、主祭神11柱の経緯、勝負運、住宅新築などのご神徳、珍しいご祭神・天鈿女命（歌舞芸能）の紹介。特徴的な上河内、下河内の二神楽団、柳の御守も掲載。『ひろしまのパワースポット社寺&ご利益巡り』南々社1470円

河内神社へのアクセス（周辺図）



これからの河内神社のお祭り

豊作を祈る春祭、上半期の厄を祓う夏越神事、収穫に感謝する秋祭、一年の幸せを願う歳旦祭など恒例のお祭り、また、人生の節目で行う七五三、厄祓いなど家族のお祭りもあります。多くの方のご参拝で盛大なお祭りとし、幸せをつなぎたいものです。

上河内・下河内・上小深川・下小深川 藤の木・河内南彩がみの氏神様
河内神社のごよみ (平成24年下半年期)

- 7月1日(日) 午後2時 夏祭、夏越大祓、茅輪神事
- 7月15日(日) 午後2時 祇園祭(御旅所御神幸)
- 8月14日(火) 午後7時半 献灯祭
- 10月13日(土) 午後6時半 秋祭前夜祭(神楽奉納)
- 10月14日(日) 午後2時 秋祭(例大祭)
- 11月15日 前夜 七五三祭
- 12月9日(日) 午後2時 新嘗祭(大祭)
- 12月31日(月) 午後6時 除夜祭(大祓)
- 毎朝 日供祭
- 毎月1日・15日 月次祭

日供祭・月次祭では、氏子の皆様の日々のご安泰をお祈りしています。午前7時半迄、境内の清掃がすんだ後、執り行いますのでご参拝下さい。

河内神社ホームページ

河内神社

資料

祇園祭

7月15日、河内神社にお祈りしている旧村社の日吉神社「下河内」のご祭神、素戔鳴尊を元のお社(権現さん)に一日だけお迎えをし、地区の人が元気に働き、生活する様子を見てもらい、今後と同じように見守ってくださいるようお祭りをします。前夜には、下河内集会所で神楽の奉納、当日は境内で地区の子供達による相撲大会が行われます。

献灯祭

お盆の8月14日夜、神社の拝殿に提灯を吊し、皆様の先祖の御霊を迎えお祭りをします。お祭りの後、小学校校庭で盆踊り大会が行われます。古くは、祭にあわせて河内地域の各家庭から、豆提灯を手に神社へ参拝し、提灯の明かりのもと、盆踊りが行われていました。



大事な例大祭(秋祭)

今年は10月14日、河内神社では、一年の収穫の感謝のお祭り、例大祭(秋祭)を執り行います。このお祭りは、日本人の命の源、稲の収穫にあたり、豊かな実りに氏子全員で心を込めて感謝し、今後のご加護を祈るお祭りです。



朝から子供や大人の俵御輿が出て、河内地域を挙げてのお祭りになります。

前夜祭(神楽奉納)

例大祭の前夜(今年は13日)、地元の河内地域の神楽団による神楽の奉納が、境内特設ステージであります。今年は下河内神楽団が奉納し、日頃から練習を重ねてきた成果を披露します。豪華な衣装を纏い、派手なパフォーマンスで演劇性の高い新舞も舞われます。河内神社には上河内神楽団「十二神祇と花火」と下河内神楽団「十二神祇と新舞」があり、毎年交互に神楽が奉納されます。

夜店の出店などもあり、沢山の参拝者で賑わいます。

俵御輿奉納

例大祭の後、各地を練り歩いた俵御輿の奉納が、3時半頃からあります。境内狭しと担ぎまわる俵御輿は勇壮そのものです。



氏神様に七五三詣

11月15日は七五三のお祝いの日です。まずは氏神様にご報告して、お子様の幸福と健康を祈り、祝いましょう。子を思う気持ちは昔から変わりません。神社で記念の写真を撮ってあげましょう。



河内神社の七五三詣は、10月中旬〜11月頃まで受け付けています。電話は(082)928-2283

諸祈願祭も受付(社頭・出張)

初宮詣・安産祈願・合格祈願・七五三・厄祓い・歳祝い・家内安全・交通安全など社頭祈願祭、地鎮祭(新築)、家祓い(入居)、上棟祭、商売繁盛、安全祈願、開店祭など出張祈願祭、いずれも日時をご相談、ご予約ください。

河内神社社務所 (082)928-2283